

2007年3月期 中間期決算報告

C  B I R D [®] H O L D I N G S

株式会社サイバードホールディングス

2006年11月22日

売上高・営業利益が前中間期比で大幅増

売上高 : 単体・連結ともに過去最高を更新。

単体7.1%増、連結23.9%増

営業利益 : 売上高増・原価率改善により大幅増。

単体89.0%増、連結1,518.3%増

特殊要因が経常利益・純利益に大きく影響

為替差損 : 海外子会社との取引に伴う損失(3億円)。()

株式評価損 : JIMOS株式の評価損失(19億円)。

() 当該為替差損は海外子会社への外貨建貸付に係る影響によるもの。
既に当該貸付金を同社株式に振替え、損益計算書への為替リスクを回避済み。

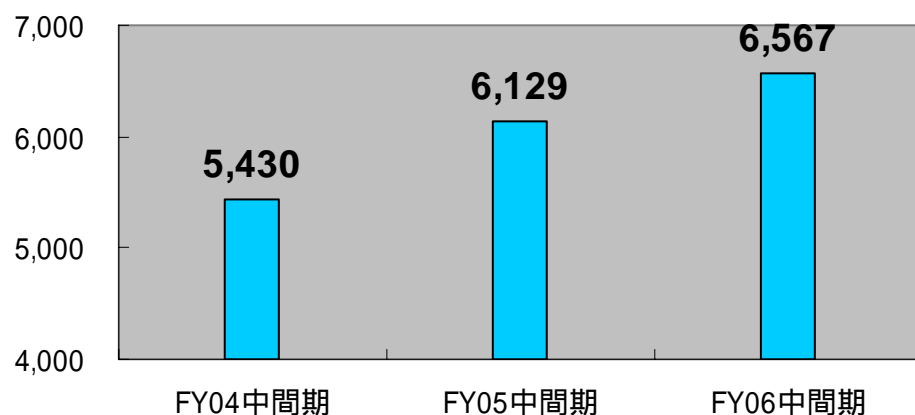
前中間期比で大幅増

単位:百万円(単位未満切捨)

		当中間実績値	前中間期比	主な要因
売上高	単体	6,567	+437 (+7.1%)	<ul style="list-style-type: none"> 引き続きコンテンツ事業は二ケタ成長達成。 海外事業を始めとする新規連結子会社の寄与。
	連結	8,450	+1,630 (+23.9%)	

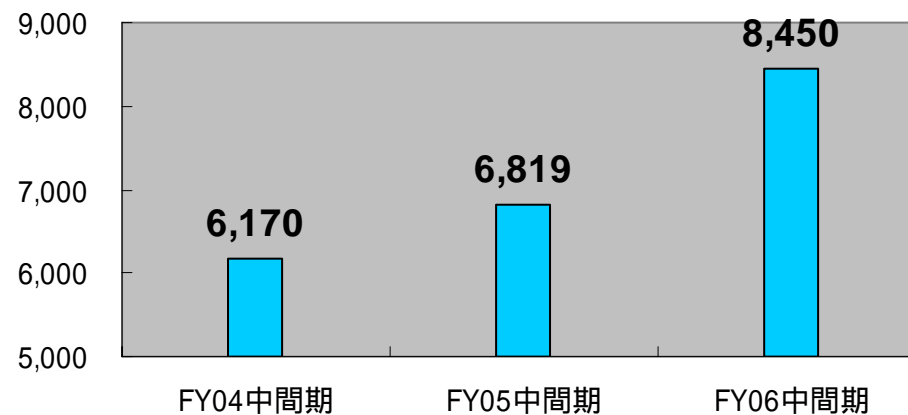
単体売上高推移

単位:百万円(単位未満切捨)



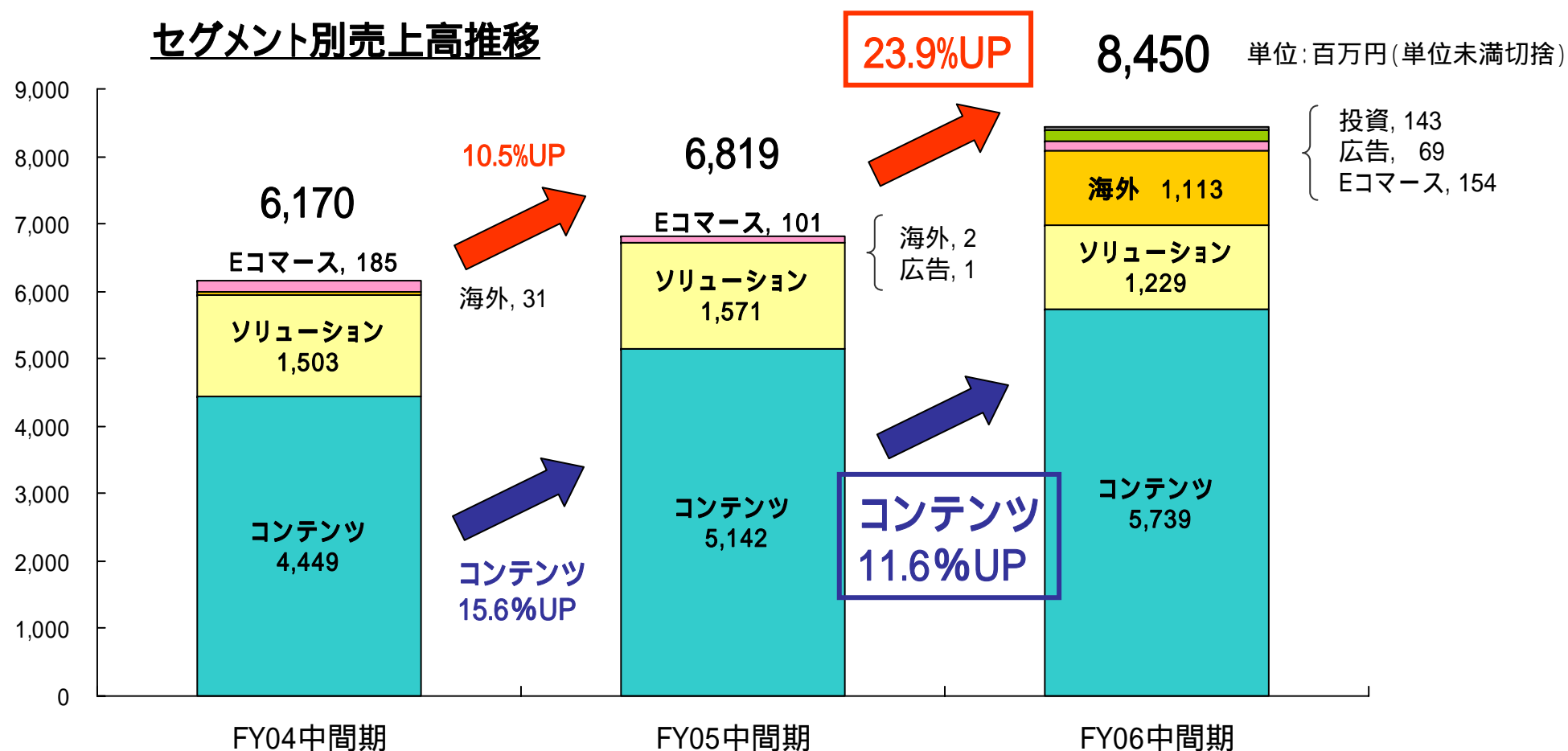
連結売上高推移

単位:百万円(単位未満切捨)



コンテンツ事業：引き続きニケタ成長持続。中間期過去最高を更新。
 海外事業：海外子会社の連結効果による売上増。北米でのコンテンツ課金収益が堅調。
 ソリューション事業：不採算子会社の非連結化が主な減収理由。

セグメント別売上高推移



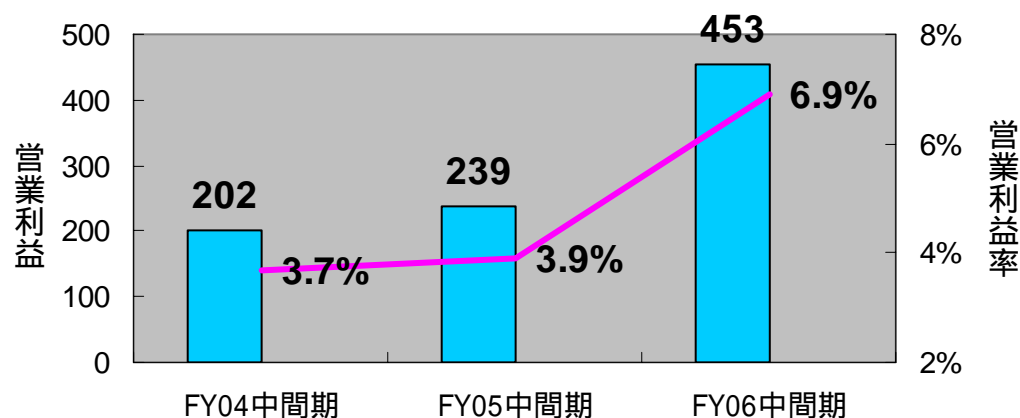
前中間期比で大幅増

単位:百万円(単位未満切捨)

		当中間実績値	前中間期比	主な要因
営業利益	単体	453	+213 (+89.0%)	・売上高増及びコンテンツ事業を中心とした原価率改善による増益効果(前中間期比連結ベースで8.3pt改善)。 ・海外事業に伴うのれんの償却を計上するものの、不採算子会社整理、子会社の収益改善も連結営業利益増に貢献。
	連結	345	+323 (+1518.3%)	

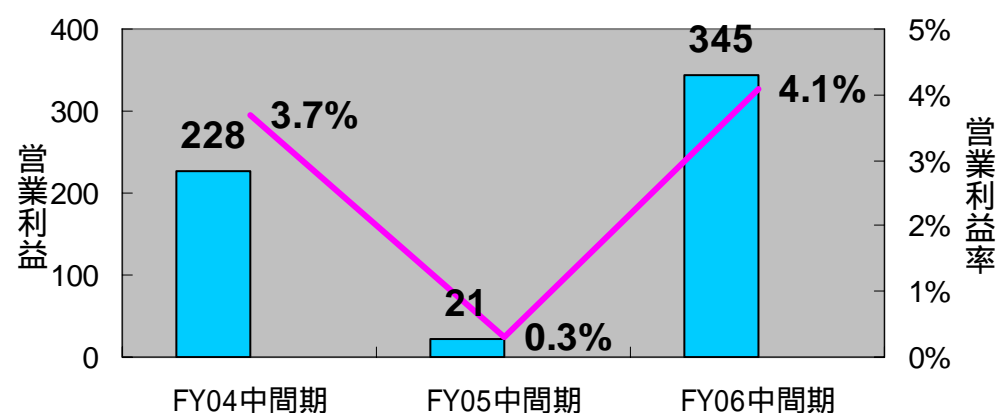
単体営業利益推移

単位:百万円(単位未満切捨)



連結営業利益推移

単位:百万円(単位未満切捨)



特殊要因が経常利益・純利益に大きく影響

単位:百万円(単位未満切捨)

		当中間実績値	前中間期比	主な要因
経常利益	単体	202	91 (31.2%)	・海外子会社との取引に伴う為替差損による影響 (3億円)。
	連結	1,945	2,010 (-)	・単体同様の為替差損による影響(3億円)。 ・JIMOS株式に係る持分法による投資損失。 (19億円 連結上は営業外費用として計上)
純利益	単体	1,946	2,185 (-)	・JIMOS株式に係る関係会社株式評価損。 (19億円 単体上は特別損失として計上)
	連結	2,183	2,281 (-)	

<JIMOS株20%分ののれん>

償却前ののれん残高 約21.2億円
 当中間期償却額 約19.2億円
 当中間期末ののれん残高 約2.0億円

<JIMOS株80%追加取得後ののれん>

80%取得後の償却前ののれん残高 約49.2億円
 期末償却額(予定) 約47.9億円
 当期末ののれん残高(予定) 約1.4億円

補足資料

売上高：コンテンツ事業・海外事業の牽引により、前中間比大幅増収。中間期過去最高を更新。

営業利益：増収・原価率効果改善等により、海外子会社のれん償却(1.8億円)計上後も大幅増益。

経常利益：JIMOSのれん追加償却(19億円)、為替差損(3億円)が大きく影響。

単位：百万円(単位未満切捨)

	FY04 中間期	FY05 中間期	FY06 中間期	前中間期比	
				増減額	増減率
売上高	6,170	6,819	8,450	1,630	+23.9%
売上総利益 (対売上高比率)	2,392 (38.8%)	2,311 (33.9%)	3,566 (42.2%)	1,254 (8.3pt)	+54.3%
営業利益 (対売上高比率)	228 (3.7%)	21 (0.3%)	345 (4.1%)	323 (3.8pt)	+1,518.3%
経常利益	237	64	1,945	2,010	-
中間純利益	1,037	97	2,183	2,281	-

2007年3月期中間期 単体業績

売上高: コンテンツ事業の二ケタ成長を主因に、中間期過去最高を更新。

営業利益: 増収、原価率改善効果により営業利益増益。

経常利益: 為替差損(3億円)計上。

中間純利益: JIMOS株式評価損(19億円)計上。

単位: 百万円(単位未満切捨)

	FY04 中間期	FY05 中間期	FY06 中間期	前中間期比	
売上高	5,430	6,129	6,567	437	+7.1%
売上総利益 (対売上高比率)	1,976 (36.4%)	2,151 (35.1%)	2,494 (38.0%)	342 (2.9pt)	+15.9%
営業利益 (対売上高比率)	202 (3.7)	239 (3.9%)	453 (6.9%)	213 (3.0pt)	+89.0%
経常利益	210	293	202	91	31.2%
中間純利益	997	238	1,946	2,185	-

販売費及び一般管理費の内訳と推移(連結)

国内：コンテンツ事業を中心として売上増なるも、効果的なコスト抑制施策を実施。

海外：子会社の連結開始による費用増。また連結開始に伴うのれん代償却(1.8億円)による費用増。

単位：百万円(単位未満切捨)

	FY04 中間期	FY05 中間期	FY05 対連結 売上比	FY06 中間期	FY06 対連結 売上比	主な要因
人件費	696	773	11.3%	995	11.8%	•海外連結による人件費増。
広告宣伝費	134	78	1.2%	104	1.2%	•売上増の一方、コスト抑制効果により、対連結売上比で前年レベルを維持。
研究開発費	261	227	3.3%	465	5.5%	•海外連結による費用増加要因がある一方、国内では、効果的なコスト抑制施策を実施。
支払手数料	656	800	11.7%	859	10.2%	•コンテンツ売上増に伴う料金回収代行手数料増加の一方、各種コスト抑制施策により、対連結売上比で改善(1.6pt)。
その他	415	409	6.0%	795	9.4%	•海外連結による費用増(内 のれん代償却 約1.8億円)。
合計	2,164	2,290	33.6%	3,221	38.1%	

アクシスソフト収益性改善(前中間期は営業損失1.1億円)。

海外事業の利益水準改善(のれん償却による影響は含まず)。

投資子会社収益の連結開始。

JIMOS株式に係るのれん追加償却(19億円)が経常利益に大きく影響。

単位:百万円(単位未満切捨)

	連結	単体	差異	主な差異要因
売上高	8,450	6,567	1,883	CYB(AE) 1,113 アクシスソフト 614
売上総利益 (対売上高比率)	3,566 (42.2%)	2,494 (38.0%)	1,071 (+4.2%)	CYB(AE) 789 アクシスソフト 219
営業利益 (対売上高比率)	345 (4.1%)	453 (6.9%)	108 (-2.8%)	CYB(AE) 88 内、のれん償却(188)
経常利益	1,945	202	2,147	JIMOS持分損失 1,900

CYB: CYB INVESTMENT INC. AE: Airborne Entertainment Inc.

資産と資本/負債の状況(連結)

JIMOS株式に係るのれん追加償却(19億円)により、投資勘定が大幅減少。

単位:百万円(単位未満切捨)

	FY05 中間期末	FY05 期末	FY06 中間期末	前期末比
流動資産	7,020	6,778	6,764	14
有形・無形固定資産	7,326	7,475	7,038	437
投資その他の資産	4,408	4,702	2,768	1,934
資産合計	18,755	18,957	16,570	2,386
負債	5,896	5,809	5,551	258
純資産	12,858	13,147	11,019	2,127
内 小数株主持分	(402)	(723)	(770)	(46)
負債・純資産合計	18,755	18,957	16,570	2,386

キャッシュフローの状況(連結)

本業における収支は堅調。 営業CF 274百万円 (EBITDA 786百万円)。
 海外子会社株式の追加取得に際し、20百万ドルを短期借入金で調達。

単位:百万円(単位未満切捨)

	FY04 中間期	FY05 中間期	FY06 中間期	主な要因
営業CF	130	905	274	営業利益 345 } EBITDA 786 償却費 441 } 運転資金増減等 188 支払法人税等 324 営業CF 274
投資CF	1,380	3,987	2,589	海外子会社株式追加取得 20百万ドル
財務CF	431	4,429	2,431	上記海外株式取得に伴う借入金増 20百万ドル
キャッシュ増減	1,943	567	113	

現金等換算差額 0 103 3

キャッシュ増減 = 営業CF + 投資CF + 財務CF + 現金等換算差額